

【神戸医療センター 疑義照会不要処方について】

2020.3.25更新分

薬品名	添付文書 用法	当院処方の用法	回答
エパデール、ロトリガ	食直後	食後	食後30分以内の内服であれば効果に差がない。
モンテルカスト錠・細粒	1日1回 就寝前	1日1回 夕食後	食後と空腹時で薬物動態に殆ど差が認められていない。
アレロック錠・顆粒	1日2回（朝及び就寝前）	1日2回（朝・夕食後）	摂食による吸収の遅延及び吸収量の低下が示唆されるもののその影響は少ないと考えられる。
ガストローム顆粒	1日2回（朝食後、就寝前）	1日2回（朝・夕食後）	ガストロームは食事の影響を受けないとの報告がある。
ランソプラゾールOD錠	1日1回	15mg 2錠分2	24時間胃内pHモニタリングを行った無作為二重盲検クロスオーバー試験がある。15mg2回が酸分泌を有意に抑制したとする報告がある。
レニベース錠	1日1回	1日2回	国内治験において、効果の同等性が確認されている。
タナトリル錠	1日1回	1日2回	海外データで、PAI-1が急性心筋梗塞時に上がる際、タナトリル分2服用により抑制されたとの報告がある。
アムロジピン錠	1日1回	1日2回	国内臨床試験において、どのようなタイミングで服用しても24時間にわたる降圧効果は同等であるという報告がある。
アダラートCR錠	1日1回	1日2回	1回40mg1日2回まで増量できる（添付文書抜粋） トラフの血圧が高値の場合、朝晩の2回に分服、あるいは晩や就寝前に追加投与することを試みる。（高血圧治療ガイドライン2014 抜粋）
ディオバン錠	1日1回	1日2回	トラフの血圧が高値の場合、朝晩の2回に分服、あるいは晩や就寝前に追加投与することを試みる。（高血圧治療ガイドライン2014 抜粋）
漢方薬	食前又は食間	食後	食前服用と食後服用で血中濃度の差がなかったという報告がある。他剤と服用タイミングを合わせることでコンプライアンス向上が期待できる。
散剤（規格違い）	—	—	規格違いでの調剤は疑義照会不要。 （ex. 処方ではバルプロ酸細粒20%と記載あるが、調剤薬局に40%規格しかない場合でも処方医への疑義照会不要となります）
散剤（力価・秤量について）	—	—	「mg」で処方された際は力価（成分量）, 「g」で処方された際は測定量。